

# 九歴だより

No.46  
2017.10

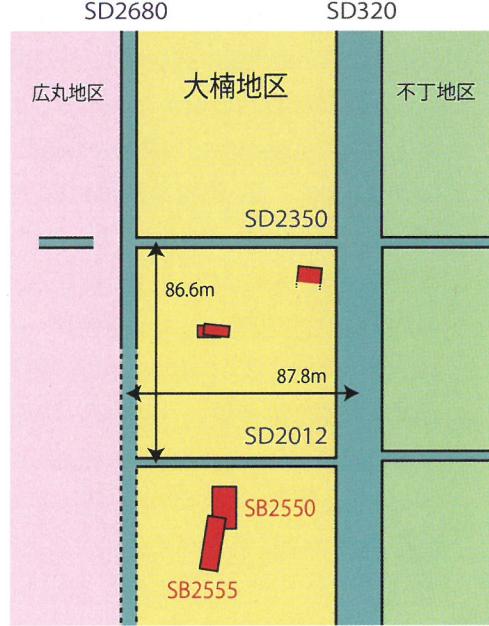
## 大宰府大楠地区官衙跡の調査成果

大宰府政府跡の南側には、大宰府に付随した官衙（役所）が存在していましたことが、これまでの発掘調査の成果から判っています。東側から日吉地区官衙跡、前面広場を挟んで、西側には不丁・大楠・広丸地区官衙跡と続きます。従来の見解では、大楠・広丸地区の建物は日吉・不丁地区的建物と比較して小規模であること、建物に井戸を伴っていることから官衙ではなく、大宰府に勤務していた役人の居住域とみなされていました。しかし、大楠地区の正式報告書作成に伴い、検出された遺構・遺物の再検討を行ったところ、従来の見解を覆す重要な発見がありました。

大楠地区では、建物64棟、柵27列、境界溝3条、区画溝19条、その他の溝53条、井戸27基、土坑、落込、鋳造遺構、地鎮遺構、木棺墓などの遺構を確認しました。境界溝は官衙相互を区切る南北方向の大溝で、SD320は東接する不丁地区官衙との境界をなし、SD2680は西縁の境界で、SD320との距離は約87.8mを測ります。区画溝は地区内を分割する東西方向の溝で、SD2350とその86.6m南側に位置するSD2012によって三つに区分されました。また確認した掘立柱建物の中には、身舎の梁行が3間の大型建物が3棟存在し、さらにSB2550・2555の柱穴からは土壁状の土塊が多量に出土しました。これらは構造的に高度な土壁造りの建物と考えられることから、両者は官衙建物とみなせます。

次に、遺物からみていくと、大楠地区からは38点の定形の硯と46点の土器転用の硯が出土しており、これは日吉地区官衙と遜色がない出土点数です。また、境界溝SD320からは、「鳥賊」と記した木簡、「那ツ支」（菜坏）・「杯」及び「厨」判読できる墨書土器、「春岑」と籠書きした移動式竈などの厨の存在を窺わせる文字資料も出土しています。ただ、SD320は不丁地区官衙との境界をなすことから、厳密には大楠・不丁地区どちらからの廃棄かは明確ではありません。しかし、製塩土器の出土点数が400点余りと多量で、物品の収納を行う総柱倉庫と炊事に不可欠な井戸の存在を勘案すると、大楠地区を「主厨司」（給食担当部所）とみなしても良いものと考えられます。

以上のことから、大楠地区は役人の居住域ではなく、官衙と判断され、従来の見解を改める必要がありそうです。（SDは溝、SBは建物の略称）



大楠地区模式図（■は大型建物）



「春岑」と籠書きした移動式竈の破片

平成30年度特別展 大宰府史跡発掘50周年記念  
「大宰府への道—古代都市と交通」

平成30年 4月24日(火)～  
6月17日(日)に開催！

# 発掘された埋蔵銭

様々な貨幣が遺跡から発見されます。もっとも古いのは今から二千年ほども前の弥生時代の遺跡からです。この頃の貨幣は古代中国で作られたものです。たとえば「五銖錢」。これは中国・前漢の武帝により紀元前118年に鋳造されたものですが、中国では610年に建国された唐代にも依然として流通していました。一方、日本では、出土例も少ないため実際にお金として流通していたのではなく、異国からもたらされた貴重な宝として扱われていたようです。

日本で最初に銅銭が造られたのは、飛鳥時代の天武天皇のとき(683年頃)の「富本銭」です。ただ国産の貨幣は、鎌倉時代に入ると原料や技術の面から生産することが難しくなり、結果的には安定して生産された中国の宋の銅銭が日本へ大量に入ってきて流通していました。福岡県那珂川町の五ヶ山網取遺跡では3044枚もの埋蔵銭が見つかりました。その貨幣の中でもっとも古い時代のものは、唐代に作られた「開元通寶」(621年初鋳)ですが、明代の「洪武通寶」(1368年初鋳)や「永樂通寶」(1408年初鋳)が圧倒的に多く、ほかにも李氏朝鮮最初の銅銭である「朝鮮通寶」(1425年初鋳)、15世紀の琉球王朝時代の「大世通寶」「世高通寶」など様々な時代・地域のものが含まれていました。

こうした貨幣はどれくらいの価値があったのでしょうか。鎌倉~室町時代当時は気候や社会状況による物価の変動が大きかったようですが、酒一升が20文前後で、今の価値でいうと一文が100円ほどになります。ちなみに五ヶ山埋蔵銭は30万円ほどの価値になります。

他国の通貨が流通していたなんて、現代では考えられませんが、銅という素材自体の価値に加えて、形の統一もとれていることが共通の価値を持つ貨幣としての条件を満たしていたのでしょう。

これらの埋蔵銭の一部は、企画展「発掘速報展2017 五ヶ山一山のくらし、いのり、そして埋蔵銭」で、12月24日まで展示します。



五ヶ山網取遺跡出土の埋蔵銭

九歴名品探訪 vol.5

## 筑豊工業高校 資料



筑豊工業高校資料は、大正8年(1919)に直方に開校した筑豊鉱山学校(後に筑豊工業高等学校)に伝えられていた資料群です。この学校は筑豊の炭鉱主たちの組合が、炭鉱で働く技術者を養成するために設立した学校で、残された教育資料には、採掘の教科書、鉱物標本や地質模型、採掘道具などがあり、かつての石炭採掘の姿を如実に知ることが出来ます。また、母体である組合などを通して、

筑豊における石炭産出高や労務状況を示す資料ももたらされました。

さらに、筑豊の炭鉱画家として知られる山本作兵衛の炭鉱画も1枚含まれています。描かれているのは作兵衛がかつて働いていた炭鉱の、明治時代における典型的な採掘の様子で、地底深くで黙々と働く姿が印象的なものです。

この炭鉱画を含む筑豊工業高校資料のうち、昭和初期の資料を中心に、12月26日(火)から企画展「炭鉱と学校の昭和史」でご紹介します。



山本作兵衛の炭鉱画



文化財サイエンス・ラボ Study 5

# 大宰府の建物を彩る赤色の科学

古代の建物の柱が赤色に塗られていたことは、ご存知のことと思います。当館にある大宰府政庁中門の復元模型も赤色に塗られています。では、赤色に塗られていたのはどうやってわかったのでしょうか？

赤色に塗られていた痕跡は、どこにあるのか？それは建築部材ではなく、屋根に葺かれていた軒平瓦にあります。ただ、これは普段、展示では見られない裏側にあります。大宰府政庁跡の軒平瓦の顎と呼ばれるところと、平瓦部分とが段になっているあたりが赤色になっている資料があり、光学顕微鏡で観察すると、瓦の上に赤色の顔料が付着している様子がわかります。この場所は、ちょうど屋根瓦が建物の壁から外に出ている部分です。このことから建築部材を赤色に塗る時、軒先の瓦まで塗ってしまったのではないか、という説が考えられています。古代の職人さんがついうっかり、塗ってしまったのかもしれません。

さて、この赤色を見て、多くの方は、建物が「朱塗り」とか「丹塗り」されている、というようにおっしゃるでしょう。この「朱」や「丹」（鉛丹）は、科学的な成分でいえば、それぞれ、主に水銀（Hg）・硫黄（S）、鉛（Pb）であり、材料としては、別のものです。このほか、鉄（Fe）を主とする「ベンガラ」も多用されており、赤色の材料は、大きく3種類あることが知られています。

では、大宰府政庁の建物はどの材料で塗られていたのか、赤色に含まれる元素をモバイル型蛍光X線分析装置で調べました。すると、主な成分として、鉄（Fe）が検出され、ベンガラであると推定されました。つまり、科学的にいえ

ば、「朱塗り」でも「丹塗り」でもないのです。「朱塗り」や「丹塗り」とは、古代の建物の場合、広く赤色を指すと考えた方がよさそうです。しかし、朱と丹とベンガラの顔料サンプルを見比べると、同じ赤色でも色味が違っています。建物の赤色は、ベンガラを使っていたとされ、彫刻の彩色には朱が使われると考えると、おそらく目的に応じ、使い分けがあったと思われます。ここに古代の人たちの色彩感覚の豊かさを感じられます。

10月7日（土）から開催する企画展「大宰府を探るサイエンス」では、このように大宰府の出土遺物を科学という眼でみつめています。展示をつうじて、みなさまに、大宰府を見る「新しい眼」を提供いたします。



赤色顔料付着部分の拡大



（太宰府政庁跡出土）  
赤色顔料が付着する軒平瓦

## 展示紹介 平成29年度 下半期に開催される展覧会

### 企画展「発掘速報展2017 五ヶ山－山のくらし、いのり、そして埋蔵鏡－」

会期 9月26日（火）～12月24日（日） 会場 第2・4展示室

那珂川町五ヶ山ダム関連の調査から埋蔵鏡や巨石祭祀、中世館跡など紹介！

### 企画展「福岡県の城－戦国乱世の城から幕藩体制の城へ－」

会期 10月7日（土）～12月3日（日） 会場 第1展示室

福岡県内に残る中近世の城館跡について、出土資料、文献史料、絵図資料から紹介！



久留米城の絵図  
（延宝八年製図久留米市街図  
部分 久留米市蔵）

### 企画展「大宰府を探るサイエンス」

会期 10月7日（土）～12月3日（日） 会場 第1展示室

大宰府の資料を「科学」という新しい視点から検証！初公開資料もあります。



カンテラ・電灯

### 企画展「炭鉱と学校の昭和史」

会期 12月26日（火）～3月4日（日） 会場 第1・2展示室

旧筑豊鉱山学校の資料から激動の時代の筑豊炭田を紹介！

### 企画展「東光院の古仏たち」（仮）

会期 2月10日（土）～4月11日（水） 会場 第1展示室

東光院に伝わる貴重な古仏を一堂に展示！

# 九州歴史資料館・分館行事予定

平成29年10月～平成30年3月

九州歴史資料館		行事・事業予定
展示		常設展示:「歴史(とき)の宝石箱」[10月7日(土)～3月31日(火)] *12月5日(火)～12月7日(木)・2月6日(火)～2月9日(金)は臨時閉室 企画展示: 10月 7日(土)～12月 3日(日)「福岡県の城－戦国乱世の城から幕藩体制の城へ－」 " 「大宰府を探るサイエンス」 12月26日(火)～3月 4日(日)「炭鉱と学校の昭和史」 2月10日(土)～4月11日(水)「東光院の古仏たち」(仮) 3月 6日(火)～6月17日(日)「きゅうおにタイムトラベル－大昔のくらしと国づくり－」 パネル展: 10月 3日(火)～12月17日(日)「日本列島の城」(企画展「福岡県の城」同時開催) 12月19日(火)～3月11日(日)「女男石と山田堰」(仮)(甘木歴史資料館連携展示) 12月26日(火)～3月 4日(日)「福岡の庭園」(仮) 3月13日(火)～3月25日(日)「筑紫地区文化財写真展」 3月27日(火)～6月17日(日)「保存科学成果展」 古代体験: 毎週土・日・祝日に、九歴ボランティアによる古代体験実施中(予約不要。有料・無料有)
講座・イベント		九歴講座: 全12回、毎月第2土曜日(参加無料、申込不要、定員160名、11時から整理券配布、13時から入室) タペのギャラリー: 10月27日(金)・11月24日(金)・1月26日(金)・2月23日(金)(16:30～17:30 要観覧料) 講演会: 11月 3日(金・祝)「文化財の保存科学100年」:澤田正昭氏(東北芸術工科大学文化財保存修復センター長・教授) 11月 5日(日)「福岡県の城郭研究の歩み」:廣崎篤夫氏(名誉博士(歴史学)) イベント: 11月19日(日)アクロスマジックコンサート(参加無料、申込不要)
発掘調査		大宰府史跡調査(蔵司地区)・県内遺跡発掘調査 10月～3月
<b>求菩提提 資料館</b> <small>〒828-0085 豊前市大字鳥井畠 247 TEL・FAX 0979-88-3203</small>		常設展:「求菩提修道の世界」 企画展:10月6日(金)～10月29日(日)ミニ企画展「求菩提の農村景観」 史跡ガイド活動:申し込みに応じて豊前市内の史跡をガイドします
<b>甘木歴史 資料館</b> <small>〒838-0068 朝倉市甘木 216-2 TEL・FAX 0946-22-7515</small>		秋季企画展:10月11日(水)～12月10日(日)「九州絞り大全～甘木絞りと博多絞りを中心には～」 企画展講演会:11月11日(土)「九州の絞り文化から見る甘木絞り」遠藤啓介(甘木歴史資料館副館長) 11月19日(日)「日本の絞り染めと九州の絞り染め」安藤宏子氏(絞り作家) *講演会はいずれも要申込み(50名先着)。会場は朝倉市図書館2階視聴覚室。 企画展体験教室:11月 3日(金・祝)～5日(日)「絞り染め体験」甘木絞り連絡協議会 要申込み(各日10名先着)費用:1000円 新春企画展: 1月 5日(金)～2月25日(日)「郷土の日本画家 徳田玉龍 富嶽百景 part3」 春季節展: 3月 1日(木)～4月8日(日)「あ!さくら展」*さくらコンサート3月24日(土)
<b>柳川 古文書館</b> <small>〒832-0021 柳川市隅町 71-2 TEL 0944-72-1037 FAX 0944-72-5559</small>		企画展:10月11日(水)～12月 6日(水)「大友家文書の世界」 12月 9日(土)～2月 4日(日)「立花宗茂と柳川の武士たち」立花家史料館と共に 2月 7日(水)～4月 3日(火)「松井家・立石家のおひな様」 歴史講座:10月29日(日)特別展「大友家文書の世界」に関連し、田淵義樹(柳川古文書館館長)・大城美知信氏(柳川市史編集顧問)が講演 歴史文化講演会:12月 2日(土)特別展「大友家文書の世界」に関連し、阿部哲人氏(米沢市上杉博物館学芸員)・湯山賢一氏(神奈川県立金沢文庫文庫長)が講演 *歴史講座・歴史文化講演会は柳川市立図書館2階AVホールにて開催、入場無料、事前申込不要

※各館の行事や休館日(閉室)等については、各館ホームページまたは直接お問い合わせください。



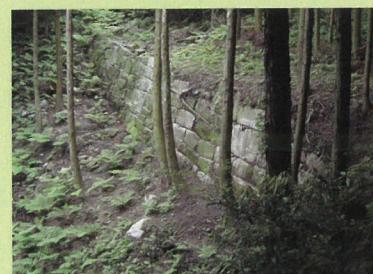
## 福岡県内の指定文化財

あしきさんじょうあと

### 阿志岐山城跡 [国指定史跡] 福岡県筑紫野市阿志岐

阿志岐山城跡は、筑後川の支流である宝満川左岸に位置する宮地岳の山腹(標高140～250m)に築かれた古代の山城です。平成11年に発見され、調査の後、平成21年に国指定史跡となりました。確認された土壘線の長さは約1.34kmですが、尾根線の範囲を城域とすると総延長約3.68kmの規模になります。水門跡は3か所確認され、第3水門跡は長さ約23m、高さ約3.8mを測る大規模なもので、その前面から8世紀中頃の土器が出土しています。

また、阿志岐山城跡の眼下には、『万葉集』に歌われた「蘆城駅家」に比定されている御笠地区遺跡A地点があります。蘆城駅家は大宰府から米ノ山峠を越えて田河に至る田河道の第一番目の駅で、阿志岐山城跡の役目一つとして交通路の監視・防衛を担っていたと考えられます。なお、古代においては、「蘆城」と呼ばれていたとみられます。



阿志岐山城跡 第3水門

## 九州歴史資料館

KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106  
福岡県小郡市三沢 5208-3

☎ 0942-75-9575  
FAX 0942-75-7834

URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>

開館時間 午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)

観覧料 一般200(150)円 高校生150(100)円

満65歳以上・中学生以下:

障がいのある方(同伴介護者1名)無料

※土曜日は高校生も無料

※( )内は団体料金(20名以上)

休館日 月曜日(ただし祝日・振替休日の場合はその翌日)

年末年始(12月28日～1月4日)

●公共交通機関

《西鉄電車》天神大牟田線三国が丘駅から徒歩約10分  
《JR》鹿児島本線原田駅からタクシーで約5分

●自動車

《九州自動車道》筑紫野I.C.から鳥栖筑紫野道路経由で約15分  
《大分自動車道》筑後小郡I.C.から国道500号線・県道88号線経由で15分  
《福岡都市高速》水城出口から国道3号線経由で約25分

開館時間 午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)

観覧料 一般200(150)円 高校生150(100)円

満65歳以上・中学生以下:

障がいのある方(同伴介護者1名)無料

※土曜日は高校生も無料

※( )内は団体料金(20名以上)

休館日 月曜日(ただし祝日・振替休日の場合はその翌日)

年末年始(12月28日～1月4日)

